

第2回大分県議会定例会が、6月12日から27日まで開催されました。今回は一般質問枠がなく、議案質疑をえんど久子県議が、議案等に対する討論をつつみ栄三県議が行いました。

日本共産党大分県議団



日本共産党 県政報告

つづみ 栄三
(大分市選出)



えんど 久子
(別府市選出)

岩手県では時給60円以上の賃上げを条件に従業員一人6万円支給するなど、中小業者の賃上



質疑するえんど県議 2025年6月20日

中小業者に中広く 賃上げの支援を

日本共産党は564兆円にも上る大企業

の内部留保の一部に課税し10兆円の財源をつくり、中小企業等の賃上げへの直接支援を強化しようと提案しています。

猿渡（えんど）久子県議は、一般会計補正予算について、「物価高騰対策として提案されているLPガス等への支援も必要だが、中小企業等の賃金アップと米不足・価格高騰への根本的な対策が必要だ」と、6月20日の質疑で主張しました。

えんど久子県議 政治の責任で 賃金アップを



して中小企業への直接支援に思い切って取り組むべきだ」と、えんど久子県議は求めました。

県の支援策の 活用はわずか71件

大分県は、生産性向上と賃上げをあわせて行う国の事業への上乗せ補助で後押ししてきたことや、他県の取り組みも参考にしていくことなどを答弁。

これに対しえんど県議

米不足は自民党政治の責任

えんど久子県議は、今の米不足や値上げは、農家に減反・減産を押しつけた結果だと自民党農政を批判。

また、大分県は「もうかる農業が重要だ」として国の方針以上に水田を畑に変えることをすすめてきたと指摘しました。

米作って 飯くえねえ 農業を変えよう

「減反・減産をやめて増産に切り替えること」「価格保障・所得補償により稲作で生活できるよう大小の農業を応援すること」「外国産米の輸入を中止すること」この3点を国に求め、大分県と

大分県議会
インターネット中継

令和7年第2回定例会
6月20日
本会議 質疑



しても米の増産にむけた支援を実施することが必要だと質問。県は、稲作についても農地の集約化やスマート農業などを取り組むことなどを答弁。

稲作への支援を求めたのは日本共産党だけ

えんど久子県議は、ゆとりある需給・備蓄と大小の農業経営を支援する

ことで消費者に手頃な価格で提供することが政治の責任だと述べ、「大分県が中山間地のおいしい米づくりを支援してもらいたい。米作って飯食えねえ、今の状況では米作りはできないという声に応えるべきだ」と強調しました。

今回の県議会本会議で米問題を質問したのはえんど県議だけでした。

教職員の定数減に日本共産党以外は賛成

県立学校の教職員は増やす一方、市町村立学校では減らすという提案があり、日本共産党だけが反対しました。現在の教員不足は、20年以上定数を減らし続けてきたことが原因だと考えています。

教職員の体制を充実すべき

えんど久子県議は、通信制を含め教員の定数を増やし、一人の教員が持つ授業時間を減らすことを訴えてきましたが、働き方改革に取り組むことも重要だと主張。教育

関係のコーディネーターについて「これからの学校運営のキーになると思う」という県民のご意見を紹介し、兼務ではなく専任配置を求めました。教育長は、通信制を含めた教職員定数の改善に向けて6月4日に国に直接要望したことなどを答弁。



2025年6月20日

小6まで35人学級が実現

えんど久子県議は、持ち帰り仕事などについて大変な実態を把握できるようにすべきだと文教警察委員会で発言。

県民から「教員の仕事が多岐にわたる」など、労働になっていくなど、教職員増員や少人数学級を願う多くの声をいただ

いています。国民の声で今年度全国の小学校全学年での35人学級が実現しました。今後も力をあわせましょう。



地域医療を守るために

診療報酬が低く6割の病院が赤字です。県病も赤字で、国への働きかけと共に大分県としても地域医療を守るために財政支援を強めるべきだと、えんど県議は福祉保健生活環境委員会で発言。

県は、国庫補助の活用や負担金の確保などを考えたいと答弁しました。

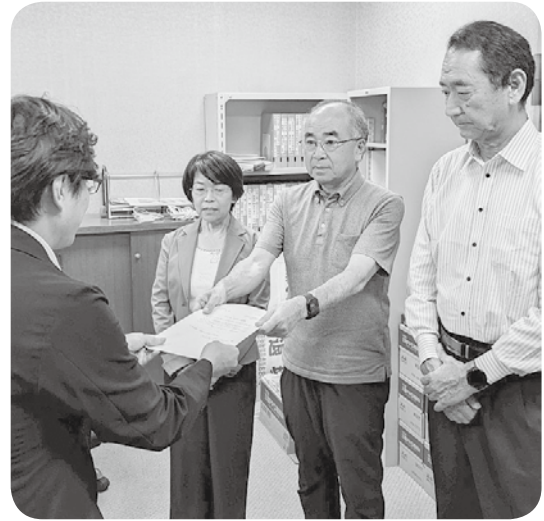
他にも、同和行政に偏った施策を改めることなども求めました。



社会保障の充実を求め要請

6月30

日、大分県
社会保障推
進協議会の
皆さんが、
国保や介護
保険など社
会保障の充
実のための
要望を大分
県に提出し
ました。



議場でオペラ

第2回定例会閉会
日に、大分県立芸術文
化短期大学の学生の



皆さんによる「議場オ
ペラ」が上演されまし
た。厳しい論戦の場
であった議場が一瞬で
華やかになりました。



公営住宅の営繕要望を聞く会

つつみ栄三県議は地
元の裏川市営住宅で、
営繕について住民との
懇談会を開催しまし
た。これには大分市役
所と住宅供給公社の担
当者も同席しました。
住民からは「ドアが



ボタンと閉まる」「チャ
イムの音が小さい」
「シャワーが欲しい」
「エレベーターをつけ
てほしい」「LED化
はいつ頃」など、たく
さんの要望が出されま
した。さっそく公社の

職員が住民の
家に行き調査
をしました。
今後とも要望を
聞く会を開催
していきます。

高すぎる国保税の引き下げを

大分市社会保障推
進協議会の皆さんと
一緒に、大分市国保
課と「国保税の引き
下げ」や「短期保険
証の発行をやめるこ
と」など、多岐にわ
たる要望と協議を行
いました。



各議案に対する態度

		日本 共産党	自由 民主党	県民 クラブ	公明党	志士の会	無所属の会	日本 維新の会	採決	
議 案	大分県税条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	19歳から23歳未満の大学生代の子等に対し、特定親族特別控除を創設するので賛成
	令和7年度大分県一般会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	家庭のLPガス代や特別高圧契約で受電する中小企業へ支援する補正予算なので賛成
	大分県立学校職員及び大分県市町村立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について	×	○	○	○	○	○	○	○	（4面参照）

▶大分県議会 HP →インターネット中継で本会議の録画を見ることができます。ぜひご覧ください。



つつみ栄三県議 最終日討論



学校の先生は

定数削減ではなく増員を

学校の先生の定数削減条例について、つつみ栄三県議は、多忙化や長時間勤務などによって、これまでに痛ましい過労死も起きていることを指摘し、「教職員は大変厳しい状況

下で、保護者や子どもの声に真摯に向かい合い、様々な創意工夫で分かりやすい授業や不登校・いじめ対策などに取り組んでいる。県教委は定数の削減ではなく、教育環境の整備や少人数学級の拡大、無理な統廃合の中止及び正規教職員の増員と待遇改善を行うべきである」と、定数削減に反対しました。

しかし、削減に反対したのは共産党県議団だけで、ほかの会派はすべて賛成しました。

請願に対する態度

インボイス制度の見直しを求める請願

「悪魔の二者択一のインボイス制度は廃止を」

この請願は、中小零細事業者で組織された大分県商工団体連合会から提出されました。

つつみ栄三県議は、「インボイスは免税事業者が、インボイス登録をするか、消費税相当分の値引きをするかの『悪魔の二者択一』を取引先から迫られる

制度である。物価高騰のもと、零細事業者やフリーランスに深刻な負担増をもたらし、多数を廃業の危機に追い込んでしまう」と現

状を訴えました

消費税を5%に

一方、「大企業向けの優遇税制は、研究開発減税だけでも2022年度では7,636億円に。大手半導体メーカーには1社で約

1兆2,000億円の補助金を出している」。「大企業優遇を改め、消費税を一律5%に減税すればインボイスの口実も無くなる。インボイス制度はきっぱり中止を含め見直しをすべきである」と、請願をぜひ採択してほしいと討論しました。

しかし27日の最終日、自民党・公明党・維新の会などによって不採択となりました。

高額療養費の負担増の白紙撤回を求める請願

この請願は、医療関係団体や労働組合、事業者団体などで組織された大分県社会保険推進協議会から提出されました。

つつみ栄三県議は「『治療が続けられない』『命綱を断ち切る

ものだ』という、がんや難病患者らの怒りの声で、政府は高額療養費制度改悪の凍結を言い出した。同制度は高額な医療費がかかった際、年収に応じて月ごとに『負担限度額』を設け、患者の自己負担

に歯止めをかける仕組みであり、これ以上の負担増をやめ、凍結でなく白紙撤回すべきだ」として請願の採択を求めました。

しかし、自民党・公明党・維新の会などによって不採択となりました。

